

東京都内の小学校における安全教育の現状と課題
ー市民の防災力向上に向けて その12ー

正会員 ○ 小室 千紘*1
正会員 平田 京子*2
正会員 石川 孝重*3

安全教育 小学校 防災教育
授業時間数 総合学習 地震災害

§ 1 研究の目的

前報に引き続き、地震被害を最小限に抑えるためには、市民一人一人の防災力を向上させることが重要である。なかでも小学生という早期から防災に関する教育を行うことは、動機付けとして大きな意味をもつと思われる。

本研究では東京都内の小学校における安全教育の現状と課題を明らかにし、今後の安全教育につなげることを目的とする。研究の流れを図1に示す。交通・生活・防災の3領域の現状をふまえて、防災教育について考察する。

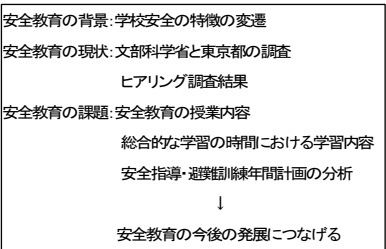


図1 研究の流れ

§ 2 学校安全の特徴とその変遷

学校安全は、児童生徒等が自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成し、安全な環境づくりができることをねらい¹⁾とし、領域として「生活安全」「交通安全」「災害安全」に分けられる。

学校安全に関する施策は児童や教職員が被害者になる事件が起きた後に出される傾向にあるが、事後での対応では遅く、被害を最小にとどめるために平時からの備えが必要である。学校安全に関する通知と、その通知を出すきっかけになった事件を表1に示す。

表1 学校安全に関する通知と契機になった事件

年	通知等	契機になった事件
2000	「幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理について」	京都小学生殺害事件
2001	「幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理に緊急に対応すべき事項について」	付属池田小事件
2002	「幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理についての点検項目の改訂について」	
2002	「学校施設の防犯対策について」	
2003	「小学校施設整備指針」	
2004	「学校安全緊急アピール 一子どもの安全を守るためにー」	
2005	「学校安全のための方策の再検討等について」	寝屋川市立小学校教師刺殺事件
2005	「幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理について」	広島小1女児殺害事件
2005	「登下校時における幼児児童生徒の安全確保について」	今市市の小1女児誘拐殺人事件
2005	「犯罪から子どもを守るための対策」	
2006	「登下校時における幼児児童生徒の安全確保のための路線バスなどの活用について」	
2007	「登下校時における幼児児童生徒の安全確保について」	宮城小6女児刺され重傷になった事件

§ 3 安全管理と安全教育に関する調査

文部科学省と東京都では、小学校対象の安全管理と安

全教育に関する調査を毎年行っている²⁾。文部科学省の「学校の安全管理の取り組み状況に関する調査(平成18年3月末実績)」、東京都の「平成19年度総合防災訓練等実施状況調査」から、どの調査項目においても、前年やそれ以前の結果を改善しており、安全管理や安全教育に関する学校側の意識は高まる傾向にあり、今後も発展が期待できる状況にある。しかし、細部に関しては実施率が未だ低い状態にあるため、今後は安全教育を領域ごと、発達段階ごとなど専門的に取り組む必要があるといえる。

また、児童への指導や学校の対応のほかに、教職員対象の取り組みも増やし、安全教育・安全管理全体の質を上げる必要がある。

§ 4 ヒアリング調査結果

安全教育に対して、実際に学校がどのように取り組んでいるかを明らかにするため、東京都の安全教育プログラム開発事業で、生活・災害・交通の各分野で推進校となっている公立校各1校と、都内の公立校1校、私立校1校にヒアリング調査を行った。概要を表2に示す。

表2 ヒアリング概要

ヒアリング対象校	都内安全教育推進校3校(生活安全a・交通安全b・災害安全c)
対象者	都内一般校d 1校 私立校e 1校 校長もしくは副校長か、安全教育担当者

ヒアリング結果から、安全教育の実践方法や意識は学校ごとに差があり、安全教育を積極的に実践している学校ほど安全への意識・関心が高いことがわかった。安全教育に消極的な学校からは、安全は成果が表れにくいいため今後の指導時間も現状維持という意見が挙がった。一方、安全教育に積極的な学校では、安全教育に関する前例がないこと、発達段階に適した教材が少ないことが障害になっているとのコメントがあった。

§ 5 総合的な学習の時間における安全の学習

安全教育の指導をより充実したものにするためには、ある程度の指導時間を確保することが重要であると考えられ、一定の指導時間が確保できうる総合的な学習の時間の分析を行う。1年間で教科の時間内に扱われた数の多いテーマの上位3項目を表3に、指導単位(1単位45分)数の多い上位3項目を表4に示す。

表3 取り上げられた回数

テーマ	a小学校	c小学校	d小学校	計
学校行事の発展	2	4	3	9
情報	2	4	1	7
地域	3	2	2	7

表4 指導単位数の多い

テーマ	a小学校	c小学校	d小学校	計
学校行事の発展	45	120	175	340
地域	122	45	31	198
情報	47	85	2	134

総合的な学習の時間は、行事や授業への転用が目立ち、教師や児童に馴染みのある情報や地域がテーマになりやすい。一方、安全がテーマとして扱われない理由としては、教師の安全に関する知識・意識が低いことが影響していると考えられる。また馴染みが薄く扱いづらいといえる「安全」を単体でテーマにすること自体まだ難しいとも言えるが、総合的な学習の時間が教科の枠を超えた横断的・総合的な学習を展開することを目的としているために、一般校では安全分野が横断的ではなく、別のテーマがふさわしいとの理解をしていることが分かった。

§6 安全指導と避難訓練の年間計画

まず、安全指導の年間計画とは、各領域の内容などから、児童生徒の発達段階に応じて系統的、計画的に指導を行うためのものであり、避難訓練の年間計画とは訓練を行う上での年間の計画書のことである。

各学校の計画から、避難訓練に関して内容や実施回数に大きな違いはみられないが、安全指導年間計画には違いが認められる。これは安全指導の時間・内容・指導方法などが学校ごとに異なるためと考えられる。文科省が例示している計画と各小学校の計画の比較を表5に示す。

表5 文部科学省と各小学校の安全指導年間計画の比較

分野	内容(文部科学省)						文部科学省に記載がないもの	
安全指導	交通	自転車の約束	交通ルール	自転車点検と整備	自転車と道路標識	交通機関使用		飛び出しをしない
		通学路の確認	身近な道路標識	凍結路の歩き方	交通事故			
	災害	災害時の行動	訓練の参加	避難の危険	火災防止	「おかしなもの」	災害時の携行品	
		屋外への避難	訓練の意義	避難場所	救急法・着衣泳	落雷の危険		
	生活	校庭・屋上の使用	安全な身支度	暖房器具の使用	誘拐発生場所	危険物発見時	110番の家	遊びの規則を
		雨天時の安全	安全な登下校	安全な給食配膳	運動時の約束	防犯にかかわる人		危険な場所
		校庭での遊び方	衣服の調節	安全な清掃活動	プールの利用	校庭の安全点検	知らない人についでいかない	安全な遊び方
		廊下の安全な歩行	休憩時の安全	安全な委員会活動	プールの約束	運動時の事故		道具の使用
	複合	冬休みの過ごし方	けがの種類と処置	けがの過ごし方	安全な集団行動			車内の安全
		夏休みの約束	身の周りの危険	遊び場の安全				他者の安全
	交通	春の交通安全	秋の交通安全	交通安全教室				余裕ある行動
	災害	火災	地震	避難	心肺蘇生法			自分の身を守る
訓練等	生活							地震・火災
								地震
								風水害
								不審者
								セーフティ教室

注：文部科学省にある項目で各学校も実践しているものに網かけしている

また、文部科学省に記載がないもので学校にある項目を二重線の右に示す

表から、文部科学省が作成している年間計画例は広い範囲をカバーしているが、実際に学校で実践されている項目は半数ほどにとどまっており、一定の項目を定めることが難しいことがわかる。このことから、安全指導のねらいを効果的に達成するためには、学校が児童や地域の実態を考慮したうえで、領域ごとに発達段階に応じて系統的、計画的に練り上げられることが求められる。

§7 安全指導の授業内容

安全指導の最適な授業内容を考えるうえで、現在、安全指導を実践している学校でどのような授業がどう展開されているかを知り、現状での課題や傾向を明らかにする必要がある。東京都安全指導プログラム開発事業の推進校（ヒアリング校 abc、その他 f）が行った安全指導の

授業内容や形式³⁾をまとめたものを抜粋し、表6に示す。

表6 安全指導の授業内容

概要				領域			テーマ				指導方法・内容							
学校名	専門分野	学年	指導時間数	教科	交通安全	生活安全	災害安全	地域での安全	学校内の安全	登下校	地震	その他	教師の指導	外部の指導	作品の作成	体験・実験	発表・劇	
a小学校	生活安全	1	1	特		●		●					●					
		2	1	特		●				●						●		
		3	1	特		●						●				●		
		4	1	特		●										●		
		5	10	総		●		●							●	●		
b小学校	交通安全	1	1	特	●								●	●			●	
c小学校	災害安全	1	13	生		●		●								●		
		3	13	総			●				●		●				●	
		4	18	総			●				●		●	●			●	●
		5	12	総		●		●									●	●
		1	1	生		●			●				●					
		1	1	生		●			●				●					
		2	1	道		●			●				●					
		3	4	総			●				●		●					
		4	3	総			●	●					●					
		4	2	総			●					●				●		
		6		総			●					●		●				
		2	2	特			●					●		●	●			
		5	8	総			●					●			●			
f小学校	生活安全	5	10	総		●		●					●		●		●	

注：該当に● 特は特別活動、生は生活、総は総合的な学習の時間、道は道徳

表から①領域・内容、②指導形式、③学習活動の展開に偏りがあるといえる。①は表の授業内容は災害を専門とする推進校のものが一番多いにもかかわらず、生活安全分野に偏りがみられる。中でも地域や学校内の安全を扱う例が多くなっている。特に②は教師主導の授業が目立ち、生徒の自主性を引き出す授業が少ない。それが総合学習に適さないと考えられている場合もある。③は学習内容を外部や他学年に発表するなど、成果を外部に発信する機会がないことから、児童と教師の双方向性を活かし、授業内容や授業形式が多様化することが望まれる。

§8 防災教育の視点から

安全に対して学校の意識は高まりつつあるが、安全指導が十分に実践されているとは言えない。その原因として、適切な教材が少ない、教師の安全に関する知識・意識が低いことが考えられ、改善が必要である。

災害安全分野は、地震がテーマになりやすいといえるが、安全指導に1単位以上の指導時間を設ける学校が少ない現状の中では、防災教育イコール避難訓練の傾向があるのも事実である。地震に関するテーマは、他の領域よりも学習・体験活動や各家庭への啓発活動など、様々な指導形態が考えられ、今後はある程度の時間を確保することで児童の確かな知識の習得が望まれる。

【引用文献】

- 1) 文部科学省：「生きる力」をはぐくむ学校での安全指導、日本体育・学校健康センター、初版、平成14年2月1日。
- 2) 文部科学省：学校の安全管理の取組状況に関する調査、http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/01/08012814/001.pdf、平成20年1月24日。
- 3) 東京都教育庁指導部：平成18年度安全指導プログラム開発事業推進校授業実践事例集、東京都教育庁指導部企画課、平成19年3月。

*1 清水建設

*2 日本女子大学住居学科 准教授

*3 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*1 Shimizu Corporation

*2 Assoc. Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Ph.D.

*3 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.